

東京労働学校

145期

労働組合教室

全12回

産業・職場・地域・平和・政治…様々な分野での課題に連帯・共闘の姿勢を模索してきた労働組合。多岐に渡る活動に確信を持ち続けるために。なぜ労働組合が存在し、何のために活動するのかを12回に渡って一緒に学び考えましょう。

期間 8月30日～11月29日（いずれも土曜日）

時間 18:00～21:00（講義2コマ+グループ討論）

場所 東京労働会館・地下中会議室

会費 18,000円 **1回聴講** 2,000円

【申込み先】 東京労働者学習協会（旧：東京学習会議） ☎:gakusyukaigi@gmail.com ☎:03-5842-5646

東京労働学校第145期「労働組合教室」受講申込書

03-5842-5647 までFAXして下さい

氏名		男・女	年齢	歳
住所	〒			
電話				
メール				
団体名				



※後日 YouTube での動画配信も対応します。

※グループ討論もあるので会場参加を推奨しますが、オンライン(Zoom)をご希望の方はお問合せください。

第1回 8月30日(土)

貧困と格差社会

現代日本の貧困と格差を様々な統計で可視化。その原因や日本社会の構造的問題を学び、労働組合運動の原点を考えます。

講師:後藤道夫(東京労働学校校長)

第7回 10月25日(土)

貧困と人権

第1回～第6回で学んだことをふまえ、「人権小国」の日本で労働組合に何が求められているのかを考えます。

講師:宇都宮健児(反貧困ネットワーク理事長)

第2回 9月6日(土)

なぜ貧困・格差が拡大したのか(1) —資本主義の仕組み—

なぜ長時間労働や雇用差別がもたらされたのか。労働者を取り込む基本的な仕組みを学びます。

講師:江口健志(東京学習協常任理事)

第8回 11月1日(土)

日本の「経済大国」化

80年代、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた「経済大国」日本の実態について、労働者の目線で学びます。

講師:村上研一(中央大学教授)

第3回 9月13日(土)

なぜ貧困・格差が拡大したのか(2) —新自由主義—

新自由主義とはなにか? 私たちの声を封じこめる自己責任イデオロギーとは? とともに考えましょう。

講師:江口健志

第9回 11月8日(土)

日本の「失われた30年」

1990年代以降、日本の景気低迷と格差・貧困の広がり、産業衰退の実態と要因について労働者の目線で学びます。

講師:村上研一(中央大学教授)

第4回 9月20日(土)

—ヨーロッパの経験から— 労働組合の基本的役割

新自由主義に立ち向かった原点。競争を制限し、共通ルールを形成する労働組合の役割を学びます。

講師:江口健志

第10回 11月15日(土)

労働者支配にどう立ち向かうか

企業支配や新自由主義は、労働運動をどのように抑圧してきたのか。産業構造の転換、労働市場の変化も見すえ、最賃運動などの新たな芽を考えます。

講師:江口健志

第5回 9月27日(土)

労働運動と福祉国家

20世紀の労働組合・階級闘争に、新自由主義を打破するヒントが示されています。福祉国家をつくり上げた経験を、ともに学び共有しましょう。

講師:江口健志

第11回 11月22日(土)

新自由主義とたたかう各国の労働運動

世界をみれば年金ストや大統領弾劾など労働組合が世論の先頭に立つニュースが絶えません。欧米、韓国の例をもって日本国内の可能性を探ります。

講師:布施恵輔(全労連国際局長)

第6回 10月4日(土)

戦後日本の労働運動、その教訓

労働者の生活と権利を守ってきた労働運動。“春闘”“職場闘争”をキーワードに、いまも活きる活動の基本を学びます。

講師:江口健志

第12回 11月29日(土)

産別×地域

産業別運動と地域別運動の交わりを、ローカルユニオンの立場で実践する2人に話を聞きます。地域で労働運動をつくることの意味をつかみましょう。

講師:川村好正・松井優希(地域労組こうとう)